

かわさき区の宝物シート

宝物No.
12-1

よつやぎでんいなりじんじゃ
四谷義田稲荷神社

エリア	大師地区	シーズン	通年
	出来野・四谷	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物



左: 塩浜海岸の防潮堤 (昭和13年)
上: ハゼ釣りの風景 (昭和15年)

写真提供: 倉形泰造氏/NPO法人かわさき歴史ガイド協会

所在地	川崎区四谷上町23-20
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅よりバス「四谷下町」下車徒歩2分



基礎情報

■池上新田が完成した翌年、宝暦13年(1763)の創建と伝えられ、須佐之男命(スサノオミコト)、大己貴命(オオナムチノミコト)の2神が祀られる神社。第二次大戦後、同じ町内から現在地に移転された。

由来・エピソード

■新田開発に参加する村民たちの多くは借財によって苦しい生活を送っていた。田畑は誰のものでもなく皆で一緒に耕し農作物を作るものと考えた池上家二十四代幸豊は、無尽の取金や作徳銭(年貢を納めた残り)を合わせた資金を、村民への貸付けや雑穀の貯蔵にまわし、作徳金の運用や利息などで新田開発を続けた。新田開発のなかでもこうした田畑は「義田」と呼ばれ、取り組みの無事を祈って神社が創建された。

■付近は江戸時代の稲荷新田村の一部で「四谷耕地」といわれた地である。4軒の家で開墾され「四ツ家」から「四谷」に転じたといわれる。昭和11年(1936)に稲荷新田から独立し、産業道路を挟んで四谷上町と四谷下町に分かれた。

補足・その他

関連シート

(10-2)池言坊
(13-1)汐留稲荷
(31-3)池上幸豊